

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 7 月 28 日

評価対象事業		評価者	環境センター担当課長 谷川 克也	
環境-25	笹田リサイクルセンター管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	環境センター
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	ごみ減量対策課
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	3Rの推進・ごみの適正処理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	資源の有効活用を図り、廃棄物の再使用、再生利用に関する啓発及び推進を図るため。
効果	ごみの排出抑制、資源の再使用、再生利用が図られる。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

・廃棄物の減量・資源化に関する啓発事業を実施するとともに、笹田リサイクルセンターの保守管理及び維持管理を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	廃棄物の減量化・資源化啓発事業	再生利用施設啓発業務委託	展示、学習会及び教室等の参加人数 (人)	975 / 750	2,412 / 2,412	800 2,492	130.0%
02	環境センター維持管理業務	光熱水費、施設維持等消耗品費等	-	- / -	32,790 / 36,551	- 34,707	
03	環境センター維持修繕事業	維持修繕	計画停止を除く施設停止日数をゼロとする。 (%)	100 / 100	30,224 / 28,895	100 28,453	100.0%
04	不燃物・可燃物処理及び資源化事業	資源物選別処理等業務委託、運転保守管理業務委託	ビン・カン類搬入量に対する処理量 (%)	100 / 100	92,499 / 94,974	100 97,721	100.0%
05				/	/		
06				/	/		
07				/	/		
08				/	/		
09				/	/		
10				/	/		
		財源内訳	国県支出金	/	/		
			地方債	/	/		
			その他特定財源	52,692 / 38,356		41,061	
			一般財源	105,233 / 124,476		122,312	
			事業費の合計(千円)	157,925 / 162,832		163,373	
		人件費(千円)		18,315	16,729		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.3	1.9	1.5			
会計年度任用職員	2.0	3.0	4.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	廃棄物の減量化・資源化啓発事業	コロナ禍ではあるが、目標を達成し、3Rの推進に寄与している。	廃棄物の減量化・資源化に寄与したことで、妥当性は認められる。	各種教室やごみ問題について動画配信を実施。
02	環境センター維持管理業務	施設を適正に運営するための維持管理であり、指標の設定は困難である。	施設の維持管理に寄与したことで、妥当性は認められる。	電灯等のLED化、空調設備等の更新。
03	環境センター維持修繕事業	適切な維持修繕を行い、100%の稼働率に寄与した。	施設の維持管理に寄与したことで、妥当性は認められる。	将来行われる、長寿命化工事までの計画的な修繕計画。
04	不燃物・可燃物処理及び資源化事業	適切な運転・選別を行い、100%の処理率に寄与した。	資源の再使用、再生利用に寄与したことで、妥当性は認められる。	資源物の処理に関する包括的委託の検討。
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	4 法令等により、市に実施が義務付けられている
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済
		△-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
	協働実施済の場合のパートナー	NPO法人 鎌倉リサイクル推進会議

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止

廃棄物の減量化・資源化に関する啓発を行うとともに、施設の適切な維持管理を今後も実施していかなくてはならないため。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	展示、学習会及び教室等の参加人数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
3Rの推進するためには、行動する市民を育成することが重要であることから、展示、学習会及び教室等の参加人数を指標とした。	目標値	750	750	800				
	実績値	848	975					
	達成率	113.1%	130.0%					

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	廃棄物の処理は市町村の固有事務であるため、収集や処理の方法が市町村によって異なります。このため当該事業実施に伴う他市との比較はできません。
--------------------------	---